「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託実績（令和元年度）

【事業の趣旨】

学校図書館の利活用を一層広げる観点から、学校図書館の活用が十分でない学校における学校図書館の活性化や、学校が抱える課題の改善に効果的な学校図書館の利活用に資する方策を検討する際に参考となる取組事例や、学校図書館を利活用したことによって改善されたことを示す様々なデータを得るため、学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究を行う。

【委託先・事業概要一覧】

受託者	事　業　概　要
千葉県 教育委員会	・推進地域及び推進協力校の司書教諭または学校図書館担当職員が情報交換や研修を行った。 ・推進協力校や協力校で取り組まれた実践や公立図書館との連携の在り方を報告書としてまとめた。
滋賀県	・研究指定校において、各学年・各教科の年間指導計画に学校図書館の活用を位置づけることで、見通しを持って授業での学校図書館の活用を行った。
和歌山県	・研究協力校及び地域の小・中学校の実践報告を交流することで課題を確認し、その現状にあった指導講評・講演を受けることで、更なる実践的な学校図書館の活用の促進へと繋げた。
紋別市長	・研究指定校において公立図書館司書が担任とティームティーチングで調べ授業を実施したり、読書習慣作りを目的とした「読書通帳の作成」や学校司書を招聘し公開研究会も開催した。
市川市 教育委員会	・教職経験4年目の教員を対象に、ベテラン教員による学校図書館活用の研修会を行った。 ・司書教諭、学校司書対象に学校図書館研修会を実施した。
尾道市 教育委員会	・推進協力校において、日常的な読書活動の充実や学校図書館を活用した授業実践、学校図書館の環境構成をそれぞれ進めていき、その取組を広く発信し普及を図った。
国立大学法人 東京学芸大学	・学校司書のための研修プログラムについて企画・実施・検証を行い、研究指定校において、学校図書館を活用した授業実践を行った。それぞれの取組や実践を事業報告会で発表した。

「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託事業

2019年度事業
（千葉県）

課題

〇県内各学校の学校図書館の利活用状況に地域差があり、物的・人的環境の充実を図るとともに、司書教諭と学校司書の関わり方や子供たちへの支援等、一層の充実が求められる。

事業のねらい

学校図書館の機能の充実を図り、児童生徒の自発的・自主的な学習活動の促進や教員のサポート機能の強化等、学校図書館の有効な活用方法等に関する実践的な調査研究を進め、その成果を県内に周知する。

取組実施地域・学校の指定

【推進地域】船橋市
船橋市立高根台第二小学校
船橋市立高根台中学校

【協力校】
５つの教育事務所より
小・中学校各１校
県内各地より県立高校５校
合計１５校

実施内容

①事業委員会の開催

推進地域及び協力校の司書教諭または学校図書館担当職員が会議に参加し、研修及び情報交換を行いました。

②指導主事による学校訪問

担当指導主事が協力校を訪問し、学校図書館を生かした授業等を参観するとともに、研究の状況や今後の展望について協議しました。

③司書教諭及び学校図書館担当職員等研修会

推進地域において、研修会を開催し、協力校や近隣校の司書教諭または学校図書館担当職員が参加した。
推進地域の実践と成果を共有し、自校の実践に役立てました。

④研究成果の周知

推進地域や協力校で取り組まれた実践や学校司書及び公立図書館との連携の在り方を報告書としてまとめ、県ホームページに掲載しました。

成果

〇学校図書館自己評価表の回答より

学校図書館の整備・活用状況等を自己評価した結果を基に、県教育委員会が認定し、「優秀学校図書館」の割合が小・中学校ともに増加した。

千葉県　独自調査		小学校	中学校
2018年度	優良図書館	93.2	80.7
	優秀図書館	44.8	30.7
2019年度	優良図書館	94.3	80.6
	優秀図書館	47.3	34.5

※　物的環境、人的環境、活用、意欲の喚起、外部連携の５観点（19項目）のうち、12項目が「達成されている」と回答した場合、優良学校図書館として認定。
※　物的環境、人的環境、活用、意欲の喚起、外部連携の５観点（24項目）のうち、20項目が「達成されている」と回答した場合、優秀学校図書館として認定。

各教科等の年間計画への位置付け、環境の整備、地域の連携等を通して「読書センター」としてだけでなく、「学習センター」「情報センター」としての活用の幅が広がってきていることが、自己評価の結果から明らかになりました。

学校図書館自己評価表や学校訪問での各学校の取組状況から、司書教諭や学校図書館担当職員、学校司書等の工夫改善に努めていることがうかがえる。学校が一体となった取組の積み重ねが、学校図書館の充実につながっていた。

「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託事業

2019年度事業
（滋賀県）

課題

〇教師主導の活動が多く、児童が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む学習活動が少ない。

〇計画的に、学校図書館を活用した授業の単元構想等は行っていない。

事業のねらい

〇自分の考えを広げたり深めたりしながら目的や意図を明確にした表現活動を行い、自分の課題を解決する活動を取り入れる。

〇教員全員で年間指導計画を作成したり、学年のつながりを共通理解したりしながら学校図書館活用について取り組む。

取組実施地域・学校の指定

滋賀県野洲市立篠原小学校

実施内容

①年間計画の位置付け

・各学年・各教科の年間指導計画に学校図書館の活用を位置付け、見通しをもって授業での学校図書館の活用を行った。

・計画にはない学校図書館を活用した授業を行った場合には、次年度に生かすために、随時追記している 。

②全学年、様々な教科での図書の活用

・6年生総合的な学習の時間
「平和学習」での、修学旅行に向けた広島の地理、歴史、文化、戦争などについての調べ学習

・ 5年生国語科
「5年1組オリジナルのおすすめ本コーナーを作ろう！」 での、自分が好きな本を一冊選び、本の帯を通して、友だちにおすすめの本のよさを伝える学習

・ 4年生国語科
「『主人公に手紙を書こう』での、学習を生かして、教材文の他の本で、感情の変化のある物語を読む学習

・3年総合的な学習の時間
「大豆を育てよう」での、食べ物に関する情報収集

・2年生活科
「はっけん　くふう　おもちゃづくり」での、手作りのおもちゃはどんな物があるのかを調べ、作りたいおもちゃをグループごとに工夫して作成する学習

・1年生活科
「あきとなかよし」での、手作りおもちゃの作り方、どんぐりの種類やどんぐりを使った遊び方などを調べる学習

③図書委員会による読書推進

・全校集会での、ビブリオバトルによる、学校図書館にある「オススメの図書」の紹介

・全校児童・全職員が「自分のオススメ図書」をカードに書いて掲示し、全校に自分の好きな本を紹介

成果

〇 教職員の学校図書館の利活用に対する意識の高まり

	児童に、図書館を利用した授業を行っている。	児童に、本やインターネットなどを使って資料の調べ方が身に付くよう指導している。
事前	33%	55%
事後	50%	70%

〇授業の質の向上

単元構想で学習全体の見通しをもつ。
↓
図書を利用することで、教科書の内容にとどまることなく、学習を深める。
↓
児童が一人1冊本を手にすることで、課題を追求することができるようになった。
↓
児童の調べ学習の幅を広げることができた。

〇児童の読書推進

児童の読書活動が進み、全校児童が「自分のオススメ図書」を紹介することができた。

「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託事業

2019年度事業
（和歌山県）

課題

〇表現の仕方に着目して捉え、自分の考えを書くことや、目的や意図に応じ、複数の情報から必要な内容を整理して書くことに課題がある。
〇子供たちが図書館を利用する機会や読書する時間も少ない。

事業のねらい

学校図書館を活用した授業への支援を行うことにより、読解力や書く力の向上を図るとともに、読書活動を推進する。また、推進地域で取組を進めることにより、その実績を県内に広く普及させ、県内の学校図書館の機能の充実を図る。

取組実施地域・学校の指定

取組協力校

〇那智勝浦町立宇久井小学校
（児童：161名）
〇那智勝浦町立勝浦小学校
（児童：269名）
〇那智勝浦町立下里中学校
（生徒：76名）

実施内容

①県の取組（学校司書に対する研修会の実施）

各市町村の学校図書館教育の実践事例を交流し、広く県内に普及した。また、学校司書を対象に研修会を実施することで、学校司書の資質能力の向上を図り、実践的な授業における学校図書館の活用を促進した。

②教育委員会の取組（研修会の実施）

「ふるさと学習・調べ学習」をテーマとした研修会を実施した。地域教材を生かした調べ学習について川上真哉先生（東京大学特任研究員）を招聘し、講義を受ける。調べ学習における学校図書館活用の示唆を与えられる機会となった。

（自由研究教室の開催）

夏季休業中に2回にわたって小学生対象の自由研究教室を開催した。調べ学習の「きっかけ編」や「まとめ方編」の講座を通して身に付けた力を生かし、児童が自分の調査したい内容に取り組んだ。

③県の取組（検討会の実施）

研究協力校及び地域の小・中学校の実践報告を交流することで課題を確認し、その現状にあった指導講評・講演を受けることで、更なる実践的な学校図書館の活用の促進へと繋げた。

成果

〇 学校図書館の取組の普及

推進地域の実践を広め、学校図書館の有用性を再確認してもらうことができた。

複数の種目から「調べ学習」の課題を決め、実際に取組むことで、司書と教員の連携の在り方や選書を学び、具体的な学校図書館の活用の仕方を学んだ。

〇 読書活動の普及

教育委員会と学校が連携し、一つの形式に捕らわれない様々な読書交流活動を実施した。多様な読書活動が普及しつつある。

〇 読書時間が平日30分以上の割合

昨年度に比べ、協力校での平日1日当たりの読書時間が増加している。

	S中学校	K小学校
2018年度	17.3%	31.7%
2019年度	35.3%	34.9%

「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託事業

2019 年度事業
（紋別市教育委員会）

課題

○児童の学習スタイルが受け身で、自ら課題を見つけ、解決する力に欠ける。
○読書の習慣が十分に根付いていない。言語を介したコミュニケーションが未熟である。
○学校図書館の資料が不十分で、学習課題の解決に機能する場所になっていない。

事業のねらい

○学力の向上
・新学習指導要領に対応し、調べ方・学び方を身に付けられるようにする。
○不登校・生徒指導対策
・読書の習慣化により生活リズムを整える。
○特色ある教育の創造
・学校図書館を核とした地域との協働

取組実施学校の指定

紋別市立南丘小学校　校長　橋本雄一郎
児童数　102 人　学級数 9(うち特別支援 3)
司書教諭発令　有
図書標準達成率 75%
市立図書館巡回司書
週 1 回来校

実施内容

① 調べ方・学び方の指導

市立図書館の巡回司書が週 1 回来校。学校図書館利用のため時間割を調整し、担任と司書によるティームティーチングで、調べ方の授業を実施。

②読書習慣づくり「読書通帳」の作成

隣接する紋別高校の課題研究として「読書通帳」を作成。子どもが自分で履歴がわかり、色違いの通帳をコレクションすることが読書の励みに。

③公開研究会の開催　特設授業・講演会の実施

札幌市の現役学校司書を招き、公開研究会を実施。学校司書が配置されたらどのような授業が可能になるか、担任との役割分担等を学ぶ。

④「南小農園」収穫物販売益で図書購入

地域の達人の指導によりキャリア教育の一環で商品作物を生産・販売。利益を図書購入費に充てつつ、働くことの意味も体験的に学ぶ。

成果

○調べ学習は、国語辞典→百科事典→専門書→ネットで補充、という課題解決の流れが定着。学校図書館を使った授業の回数が大幅に増加。今年度の実績に基づいて、パスファインダーを整備中。

授業での学校図書館の利用回数	
2018 年度	47回
2019 年度	107回

○本事業で連携する紋別中学校の定期テスト前の部活動停止期間を家庭学習強化週間「超勉強週間（略称：CBS）」に指定し、課題の一つに家庭での読書「家読（うちどく）」を推奨。「読書通帳」に記帳できることが励みになり、30 分以上読書をする子が前年比4割増。

人通りの最も多い廊下の一角に「新聞広場」を設置。6年生が週1回以上新聞を読む割合が100%に。

○児童の平均貸出冊数が2年で 3.5 倍に！
読書量が増え読解力・活用力が向上。全国学力・学習状況調査において、国語で 12 ポイント、算数で 7 ポイント全国平均を上回る。

児童 1 人あたりの
1ヶ月平均貸出冊数

2017 年度	0.8 冊
2018 年度	2.5 冊
2019 年度	2.8 冊

「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託事業

2019年度事業
（市川市教育委員会）

課題

〇初若年層教員の学校図書館活用に係る指導力向上

〇学校図書館の効果的な活用

事業のねらい

初若年層教員の学校図書館の活用の研修の充実、司書教諭及び学校司書の専門性の向上を図るための研修の実施を行うとともに、協力校の実践研究を市内へ広げていくことで、教職員の指導力向上をめざす。

取組実施地域・学校の指定

市川市教育委員会：学校図書館支援センター
協力校：市川市立第七中学校

公共図書館と学校とを結ぶ
ネットワークシステム

- 2006年より学校図書館支援センター事業開始
- 公共図書館と市内のすべて学校図書館が教員一人一人の授業を支える体制が整っている。（図書資料相互利用システム）
- 市内小・中・義・特別支援学校全校に学校司書配置

実施内容

①協力校による授業公開

より多くの教員に興味関心を持ってもらえるように、校内支援システムを利用して、日頃行っている学校図書館活用の授業について、情報を公開した。授業の流れがわかる「授業メモ」を開示することで、授業参観に行くことができない先生方にも授業の参考にできるようにした。

②教職経験４年目教員対象「授業力アップ研修会」

【研修会の流れ】※この研修は、今年で４年目を迎える。
①ベテラン教員による学校図書館活用の授業参観後、協議会を行う。
②①の研修を受け、自校にて学校図書館活用の授業を行い、報告書を提出する。

授業参観後、協議会を設けることで、学校図書館活用について主体的に考えることができた。また、学校司書との連携についても考える機会となり、８４％の教員が学校司書と事前に打ち合わせをして授業を行うことができた。

③司書教諭・学校司書対象　「学校図書館研修会」

中学校ブロックごとに考えた情報教育のキャッチコピー

① 図書館は情報提供の場
② 調べる・まとめる・発信する
③ 収集・活用・モール
④ 探す・揺てる・使う
⑤ 調べる＋ときどきメディアリテラシー
⑥ 調べ学習とモラル
⑦ 新聞活用
⑧ あふれる情報から何を！
⑨ 情報教育と図書館教育の連携
⑩ SGK（調べ　学習の　拠点）
⑪ 右（PC）も左（本）も情報教育
⑫ ゆりかごから墓場まで
～すべてに関わる学校図書館～
⑬ 系統性
⑭ タイムリーな情報教育
（いつでも・どこでも・だれでも）
⑮ 資料の収穫＆活用

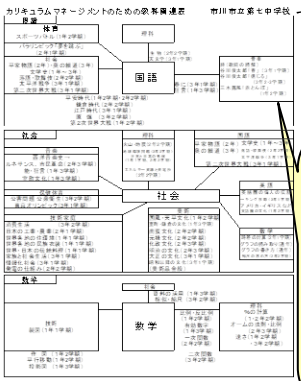
〇学校図書館研修会（対象：司書教諭・学校司書）年３回
〇司書教諭研修会　（対象：司書教諭）　年１回
〇学校司書研修会　（対象：学校司書）　年５回

夏季の研修会では、「選書について」の情報交換行うとともに、中学校ブロックごとに「情報教育」について考えを深めた。キャッチコピーを考える中で、学校図書館の活用とICTの活用をあわせて考えていくことの必要性を学んだ。

成果

〇協力校による「教科関連表」の作成

カリキュラムマネジメントのための教科関連表



【教職員意識調査より】
各教科等において、学校図書館を計画的に活用している。
１回目　５７％
２回目　９２％
※３５％増加

協力校では、「教科関連表」を作成した。各教科がそれぞれ中心となった表になっているので、教えている教科を中心に他教科との関連がわかるように工夫している。全教員で作成したので、教員の意識の向上にもつながった。

〇教職経験4年目教員の意識の変化

①学校図書館を活用した授業を通して、児童生徒の変容があったと感じている教職員の割合
８３％
②資料がたくさんあっても要点を整理しまとめることができるようにさせる
１回目４７％２回目６９％

８３％の教員が、学校図書館を活用した授業を通して、児童生徒に変容があったと感じている。また、②の質問のように授業づくりに関わる項目も向上している。このことから学校図書館活用を実践したことで、教員の意識に変化があったと考えられる。今後は、この研修を経験した教員が継続して取り組んでいけるよう支援をしていく必要がある。

①図書資料相互利用システムによる図書配送量
②学校図書館活用時間数

	①配送量	②活用時間数
2018年度	53,478冊	39,416時間
2019年度	53,972冊 ※３月11日現在 ６７回分	40,664時間

「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託事業

2019年度事業
（尾道市）

課題

〇特別な教育的ニーズを持つ児童のための資料が少ない。
〇読書好きで読書量は増えたが，学校図書館の授業活用が少なく，学力に結びついていない。
〇中学校においては，小学校の読書活動が継続おらず，学校図書館の利活用がほとんどない。

事業のねらい

広島県学力向上推進地域の指定を受けている中学校区3校が，主体的，対話的で深い学びの基盤となる学校図書館の環境を整備し，資料や情報を積極的に活用し，課題発見・解決学習に取り組むことにより，児童生徒の学校生活の安定と学力向上を目指す。

取組実施地域・学校の指定

尾道市立美木原小学校・尾道市立三成小学校・尾道市立美木中学校

美木原小・三成小
平成30年度学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究
美木原小・三成小・美木中
広島県学力向上推進地域（H30～R2）

実施内容

①日常的な読書活動の充実

美木原小は読書チャレンジ，三成小・美木中は読書貯金により，日常的な読書活動に取り組むとともに，ビブリオバトル等の主体的な活動にもチャレンジした。

②学校図書館を活用した授業実践

小学校だけでなく，中学校も各教科で学校図書館の資料を活用した授業を積極的に行い，生徒が学校図書館に足を運ぶ回数が増えた。また，読書のジャンルも広がった。

③学校図書館の環境構成

LLブック等の誰でもが読みやすい本や調べ学習に役立つピクトグラム等、特別支援教育の視点から環境を整えた。

イベントに合わせた展示で，児童生徒の関心を高めた。

「ごんレター」や新聞紹介を読んで，「いいね！」と思った人が栗の実やシールを貼るツイッター式の相互評価。

成果

〇授業で学校図書館を利活用した課題発見・解決学習に取り組んだことが，児童生徒の主体的な学びにつながった。

学校図書館の利用回数（1学級あたりの平均）

	美木原小	三成小	美木中
1学期末	7．9回	4．8回	1．2回
2学期末	14．9回	12．4回	7．0回
伸び	＋7．9回	＋9．6回	＋5．8回

〇各校の課題に添って学校図書館の環境を整えたことで，学校図書館の変容に気付き，関心を持つ児童生徒が増えた。

学校図書館への児童生徒の評価
「学校図書館は本が読みたくなる工夫をしている」

	美木原小	三成小	美木中
5月	91．2%	73．3%	70．0%
2月	95．6%	80．0%	71．6%

児童生徒アンケート（2月）
①「好きな本がある」②「本を探すとき相談できる人がいる」

	美木原小	三成小	美木中
①	95．6%	94．6%	84．3%
②	98．3%	83．8%	78．0%

〇取組を広く発信し，普及できた。

中国地区学校図書館研究大会において美木原小学校が学校図書館の利活用について発表した。

「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託事業

2019年度事業
（東京学芸大学）

課題・事業のねらい

〇学校司書のための研修プログラムについての企画・実施・検証

〇学校図書館を活用した授業実践
（研究指定校2校による授業実践）

研究指定校
・附属世田谷中学校
・附属小金井中学校

〇Webサイトでの学校司書の資質・能力の向上に役立つ情報の発信

〇研究成果の公表

実施内容

司書研修等の実施（6月、7月、11月）
〇研修プログラムの評価指標の検討

研究指定校による授業実践
〇附属世田谷中学校
・図書館力をどう生かすか
学校図書館の利活用に係る実践

〇附属小金井中学校
・主体的に情報を活用し、仲間と学び合い、自分の考えを形成する
私の主張発表会

掲載

動画配信

Webサイト「学校図書館活用データベース」による情報発信

動画配信

事業報告会の開催（12月21日）
・上記3つの取組・実践を報告（参加者 約80名）

成果・課題

〇5つの評価指標により多角的分析が可能となった
（課題）
・アンケート集計・分析の仕方の検討
（5つの評価指標に限定したことにより、個別の理由等詳細の把握不足等。）
・指標の内容等基本的な事柄の説明不足
・教員向け学校図書館活用に関する研修の必要性

〇学校図書館のレファレンス機能の特性
〇学校図書館での情報収集段階の重要性
（課題）
・〈図書館力〉の拡充ということを土台とした、学校図書館利活用についての方法や効果を「わかりやすく」具体化・具現化することの必要性
・学習者の思考・学校図書館や教室での対話の関係性についての詳細な分析

〇10年間による実践事例掲載の増加
23事例→350事例
〇年間アクセス数の増加
H30　　R元
235,414 件　→　281,656　件
（課題）
・授業実践事例のさらなる充実
・高等学校事例、特別支援学校事例の増加等